■西川義方　　内科医学者。大正天皇の侍医となり，温泉にも蘊蓄，「内科診療ノ実際」は大著ながら超ロングセラーになった。
にしかわよしかた
・・・・・・1880＝　　和歌山県海草郡雑賀村で，村長の子に生まれる。
明治14年政変1881＝ 1歳：

帝国憲法発布1889＝ **9歳：**

日清戦争始・1894＝14歳：

京都の第三高等学校から，

子規句歌革新1898**＝18歳：**
Bushidou・・1899＝19歳：**_東京帝国大学医学部に進み，入沢達吉について内科学を学び，**

日比谷公園・1903＝23歳：**_卒業すると，弟の学資稼ぎもあって，和歌山県の新宮病院に赴任，**

日露戦争終・1905＝25歳：

韓国反日暴動1907**＝27歳：**

数年で東京に戻り，日本医学専門学校(日本医大)教授になる。

明治天皇没・1912＝32歳：

民本主義・・1916**＝36歳：**
この間，大正天皇の心身の状態が思わしくないことが明らかになったためか，

ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝39歳：**_恩師入沢が宮内省侍医頭のもと，新たに選ばれた大正天皇の4人の侍医の一人になり，**
大暴落・・・1920＝40歳：**＊宮内省から，天皇の心身の障害が発表される事態になり，自らが対応できないことに恐懼，**
原敬首相暗殺1921＝41歳：皇太子裕仁が摂政につき，以後，天皇の代理をする。
水平社結成・1922＝42歳：**＊医にかかわるあらゆる情報をつめた上，第一門治療と第二門診断から，門が編に，編が章に，章が節にと細かく分類された，3000ページに近い「内科診療ノ実際」を出版，町医者必須の書となり，以後，毎年改版を重ねて行く主著となる。**
護憲三派圧勝1924＝44歳：少年団日本聯盟叢書の一冊「救護第一線」，
治安維持法・1925**＝45歳：**
円本時代始・1926＝46歳：**_新医学視察のため，渡欧し，各国の大学，研究所，療養所を訪問して，学者らと会見，ベルリン郊外ダルドルフの精神病院では，シュスター教授から，アルツハイメル病について詳しく聴くなどするうち，入沢侍医頭から，大正天皇が亡くなったので，至急帰国せよとの電報で，急遽帰国。ヨーロッパ旅行中にも，バーデン・バーデンはじめ，主だった温泉を回ったように，温泉の効用を重んじていたようで，**
共産党事件・1928＝48歳：**_結婚以来，妻と国内各地の温泉を訪れていて，「温泉読本」を出版，妻と共著で本を書く話をするうち，**
海軍軍縮条約1930＝50歳：「肺病全治への早道」，
満州事変・・1931＝51歳：「強肺健康法」。**_妻を病で失い，**
五一五事件・1932＝52歳：**＊ヨーロッパ視察時の話を「欧洲医学遍路」として出版すると，妻との約束を果たすべく，「温泉と健康」を出版，これまた400ページを超え，図版も豊富な楽しい本になっており，妻に供えるほほえましい歌を挙げているように，短歌も良く詠んでいた。**
帝人疑獄事件1934**＝54歳：**「縦と横」，
芥川直木賞始1935＝55歳：「看護の実際」，
日中戦争始・1937＝57歳：「澄心記」**_「温泉須知」，**
大政翼賛会・1940＝60歳：「随筆炉ばた」，
日米開戦・・1941＝61歳：「随筆雲と水」，
・・・・・・1942＝62歳：「水」「健康礼讃」，
創価学会検挙1943**＝63歳：**「科学の匂」**_「温泉言志」，**
年金+総武装 1944＝64歳：**_「厚生温泉学」，**
敗戦・・・・1945＝65歳：敗戦後，
新憲法公布・1946＝66歳：新設された東京医科大学の教授に就任。
新憲法施行・1947＝67歳：「表解内科学 総論篇」「イモの栄養と調理」，
極東裁判決・1948＝68歳：「肺結核の家庭療法」，

独立回復・・1951＝71歳：
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952**＝72歳：**_{講談社}から「侍医三十年」を出版したが，そのなかで，初めて大正天皇に拝謁した際，年齢を問われて，信頼を得るべく，実際より9歳若い30歳と答えたところ，以後，毎年の節分の年壽ぎの豆について，天皇は'西川は三十'と増やさなかったということを書いており，大正天皇のユーモアが見られる。そのほか，記録好きの面目躍如で，拝診のことなど細かく記している。
ﾃﾚﾋﾞ放送始・1953＝73歳：「家庭療法全書」，
国連加盟・・1956＝76歳：**＊この年の「内科診療ノ実際」58版から，子の西川一郎との共著になり，なお，連年改版が続くなか，**

安保闘争・・1960＝80歳：
ｲﾀｲｲﾀｲ病始・1961**＝81歳：**
霞ヶ関ﾋﾞﾙ・ 1968＝88歳：**_没した。**
「内科診療の実際」は，没後も改版して出版され続け，1975年の改訂70版が最後になった。

池内紀「二列目の人生～隠れた異才たち～」，Wikipedia，